

# シーレーン維持で国益確保を 有識者懇は国民的議論の触媒に

元外交官の宮家邦彦・立命館大客員教授が共同通信社の東京ささらぎ会4月例会で講演し、島国である日本の国益を守るには自由貿易のためのシーレーン（海上交通路）維持が必要だと強調した。宮家氏は、安倍晋三首相が夏に発表する戦後70年談話に関する有識者懇談会メンバーであり「懇談会が国民的議論の触媒になれたらいい」とも語った。

「緊迫する国際情勢と日本外交」の講演要旨は次の通り。

## ポスト冷戦の終焉

過去70年間、どのように世界が動いてきたか。世界規模でパワーシフトが起きており、アメリカはもう唯一の超大国ではない。周りの国も強くなっている。ロシアや中国などで、復古主義的なナショナリズムが復活している。冷戦時代はむしろ安定した時代だったが、冷戦後は不安定な時代になった。

ロシアがウクライナ南部クリミ

アの編入を強行した。これはポスト冷戦時代の終焉を意味する。ロシアという「熊」が冬眠から覚めて帰ってくるということだ。冷戦時代は、米国とソ連が対立していたため、熊は封印されて出てこなかった。

歌舞伎町を舞台に分かりやすく説明する。歌舞伎町に「ソ連組」と「アメリカ組」という二つの暴力団があり、それぞれの親分が大横綱だとする。親分が大相撲を始めるが、2人とも大横綱だから1回組んだら動かなくなってしまう。10年、20年、

30年と動かない。土俵の周りでチンピラの子分が見ている。ところが親分が全然動かないから、子分たちも動かない。これが冷戦だ。

しかし冷戦が突然終わる。ソ連組の親分が心筋梗塞で倒れてしまい土俵から退場する。歌舞伎町のしきたりで、勝ち残ったアメリカ組の親分が仕切ればいいが、何を間違えたかアメリカ組の親分は事務所に帰ってしまった。歌舞伎町の土俵には誰もいなくなり、チンピラの子分がやりたい放題を始める。これが

ずだ。だが今や欧州は平和ではない。中東では戦争が始まった。そんな時に本当にアジアを重視できるのか。中国は、それをじっと見ている。

## 日本の活路は自由貿易に

中国の陸上国境は安定しているのに、なぜ巨額の軍事費を使うのか。脅威は陸からではなく海から来るからだ。今の中国で、最も豊かで、かつ最も脆弱な地域は太平洋側だ。中国の富の大半がある。富を支えるために必要な資源やエネルギーなどは海から来る。海上輸送の方が陸上輸送よりコストが安いからだ。

冷戦時代に北朝鮮は脅威だったが、軍事的にはもう終わりがたつた。



宮家邦彦氏（みやけ くにひこ）東宝A6  
出身。全米中東  
に。島国はシーレ  
ンを維持して、  
自由貿易で生き  
ていくしかない。  
英国も日本も同  
じように「海の  
国」として生き  
延びてきた。わ

米韓連合軍が北朝鮮をやっつけることは決して不可能ではない。なぜやらないのか。勝つかもしれないが、その間にソウルは火の海になり、戦争に勝つても韓国経済は終わるからだ。韓国は絶対に戦争できない。

天然資源がない島国の国益を最大化する方法は何か。第一は、ナポレオンやヒトラー、スターリンが率いたような覇権国家が大陸に出現しないようバランスを維持することだ。大陸に覇権国家ができると、島国が侵略される可能性がある。第二は、大陸に介入しないことだ。島国は海洋国家だから、大陸に過度の介入をして国力を浪費するのは愚の骨頂だ。

われわれが望んでいるのはシーレーンがちゃんと機能することだ。オーストラリアなどの「島国」と共通の利益に基づき、安全保障上の協力を含めた重層的な「島国同盟」を拡大すべき時期に来ている。

## 「保守の進化」

戦後70年談話に関する有識者懇談会では、非常に活発な議論が起きている。バランスはいいが、有識者にコンセンサスはない。だから首相の談話の下書きは誰もできないと思う。懇談会では、いろんな人がいろんな議論をしている。国民的な議論の触媒になれたらいい。

日本はこれからどうやって生きていくべきか。日本はもう若くない。高齢化しており、美しく老いたいのだ。戦って物を取る時代はとっくに終わっている。日本はどうやって生き延びるかを考える必要がある。今はポスト「ポスト冷戦」の時代であり、民族主義の弱肉強

今の欧州だ。

つまり冷戦時代は、米国とソ連という超大国がしのぎを削っていたため、各国の民族主義は封印されてきた。冷戦が終わり、その封印が解けてしまった。ドイツにはネオナチがいて、ウクライナやロシアにもそういう連中がいる。そして残念ながら、その人たちが声を上げ始めている。

ロシアの熊を冬眠から覚まさないために何をしたか。欧州連合（EU）や北大西洋条約機構（NATO）の拡大などは全部失敗した。その失敗の結果がクリミア編入だ。クリミア編入によりポスト冷戦の時代が終わる、ポスト「ポスト冷戦」の時代に入った。それは民族主義と民族主義が対立する時代だ。ロシア周辺の欧州では、現状を力で変更しようとする動きが起きている。

米国は、欧州が平和であり、中東も戦争が終わったから、アジアを重視しようとしてきたは食の時代に入ったかもしれない。そんな時代には混乱が起これり、そこから新しいパラダイムの創造へと向かうはずだ。その創造の過程に参加しなければいけない。新しいパラダイムは自由、民主、法の支配、人権、人道といった普遍的価値によって規定される。

新しいパラダイムには、中国も参加してもらわないといけない。中国が力による現状変更をやめて、国際社会の一員として責任ある役割を果たすことは万々歳だ。粘り強く働き掛けていかなければいけない。

日本も変わらないといけない。伝統を守ることは大事だが、伝統を守るには変化が必要だ。過去のことを過去の価値体系で説明するのは簡単だ。だが守りたい伝統があるなら、普遍的な価値観で説明できなければいけない。説明できれば伝統は生き残る。それを私は「保守の進化」と呼んでいる。保守が進化すれば、日本は生き延びる。